

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム かぐや姫
所在地	西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成24年 8月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24 年 9 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・併設のデイサービスの利用が自由に出来る。・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリの対応が早い。・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。・月1回、ボランティアによる音楽療法を実施。・月2回、同じ法人のGHとの交流会を実施。・院長自ら、週1回程度訪問し、入居者との面談を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は医療法人が母体で、同敷地内にデイサービスや訪問看護の事業所が併設されており、連携しながらケアの質の向上に努めている。田園が広がる地域に立地し、季節の移り変わりを感じながら過ごすことができる。管理者をはじめ職員全員が笑顔を大切に優しい声かけをするよう努めており、利用者一人ひとりが穏やかでその人らしい暮らしができています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム かぐや姫

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏 名 小玉弘美

評価完了日 平成24年 8月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との連携を密にしたかぐや姫独自の理念もあり、又、各階の理念もあるので勉強会や毎日の申し送りなどで理念に触れ、意見の統一を図りながら実践につなげている。 (外部評価) 開設当初に作成した理念に基づき、利用者一人ひとりの個性を大切にした支援のあり方をわかりやすい言葉にした介護目標や行動指針を作成している。管理者と職員は、事業所内に提示するなど日々確認しあって、ケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の幼、小、中学校との交流の機会がある。又、地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声をかけ参加してもらっている。 (外部評価) 幼稚園や学校から年間行事の情報をもらい運動会に参加し、中学生の体験学習を受け入れている。近所の方から季節の野菜をいただくなどしているが、さらに地域との日常的な交流を拡げていきたいと考えている。	事業所が開催するイベントを、運営推進会議を活用して広く地域の方に参加を呼びかけるなど、地域との交流を進める取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 小学校、消防署、職員など新たに構成メンバーを増やし、ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多くの意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映している。	
			(外部評価) 運営推進会議は併設する事業所と合同で定期的開催し、事業所の活動報告や行事のお知らせ等をしている。意見交換が活発にされ、記録もしっかりとっているので次回の会議にも活かされている。	地域との関わりを活発にするため、参加メンバーに地域住民を入れる取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センター、市役所の保健福祉課との情報交換を行っている。今後とも共同関係ができるように、担当者と会う機会を増やしている。	
			(外部評価) 市の担当者に運営推進会議へ出席してもらい、利用者の暮らしぶりや運営について理解してもらい、気軽に相談できる良好な関係を築いている。市の介護相談員が来訪し利用者の相談に応じてもらい、事業所と連携してサービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理解と意識を図っている。身体拘束は行っていない。	
			(外部評価) 職員は研修を通して、身体拘束の弊害など正しく認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。日々の業務の中で言葉で拘束することがないよう配慮している。玄関の鍵は夜間以外は施錠しておらず、利用者は自由な暮らしができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員が進んで、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し勉強している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容はわかりやすい表現に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。出された意見はすぐに話し合いを持ち反映させている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者の個々の意見や要望を聞くよう努めている。家族の面会時には話し合える環境を作っている。遠方の家族には、機会あるごとに電話で利用者の状況を伝えて、意向を確認している。出された意見等について、職員で話し合い運営に反映するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図れるように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。必ず年1回の代表者との個別面談を実施している。又、月2回のリーダー会もあり必要時は職員の意見を聞く場を設けている。 (外部評価) 管理者は職員の意見を大切に聞き取るよう努めている。管理者の姿勢が職員に伝わり、良好な関係が築かれている。年に1回、法人代表者と職員の面接もあり意見を述べる機会が設けられている。エコに関する意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給をつける。精勤手当、昇給とあり、就業環境を考えてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回、施設内の研修を実施している。施設外研修は希望を聞き、年間の研修に全職員が最低でも2～3回は受講出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるか、家族の気持ちになって受け止めようと努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向けて本人や家族が納得し、満足できる支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多く持ち、声掛けに配慮している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒になって利用者を支えていく為に、同じ思いで支援していることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参りに行ったり、地域の行事などに参加し、継続した支援を行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりのこれまでの馴染みの関係を把握し、行きつけの美容室や墓参りに出かけるなど関係が途切れないよう支援している。併設のデイサービスセンターは地元の利用者が多く、顔なじみの知人に声かけができよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入りながら、上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても病院や施設に様子伺いをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で利用者への声かけに努め、思いや意向を把握している。一対一で話すことで本音が聞けることもある。意思表示の困難な利用者については、表情や態度から思いを汲み取るように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接時、家族本人から聞き把握している。又、面会時の話や日常会話の中で、これまでの暮らしを知ることが出来る。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、できること、分かる力を生活の中で見つけていくことに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞いて反映させるようにしている。	
			(外部評価) 本人や家族の希望を聞いて、職員全員で話し合っ、担当者と管理者が介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い見直しをしている。利用者の状態に合わせて、家族に確認しながら介護計画がよりよいものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設デイサービスの利用、併設病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月1回、音楽療法のボランティアに来てもらっている。年に数回、幼、小、中学校との交流会がある。消防署の協力を得て、防火訓練を行っている。地域の老人会活動に参加する機会もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて受診支援を行っている。必要時には訪問診察に来てもらっている。併せて職員も積極的に医療に関する研修に参加している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診には職員が同行している。専門医の受診については、家族が同行している。一週間に1回、法人の代表者である医師が往診し、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職がいない為、併設病院の看護師との連携がとれる体勢が確保されている。又、併設に訪問看護、デイの看護スタッフがいるため、相談、助言をしてもらえる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換をしながら退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 病院との連携を図り、指導を受けながら重度者のケアにあたっている。順次、職員は医学的知識が身につくように研修に参加している。 (外部評価) 終末期の方針を利用者や家族に説明し、希望に沿えるように、法人の代表者である医師の指導のもと職員全員で支援している。同敷地内に訪問看護事業所が併設され協力体制がとられている。急変時の対応マニュアルを作るなど職員の意識づけがされている。	「できる限り事業所で安心して過ごしたい」という利用者や家族の希望に対応できるよう、重度化や終末期の勉強会を重ねて、支援体制を整備していく取り組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による人命救急の研修を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議のメンバー、ご近所の方にも協力をお願いはしている。又、運営推進会議で議題に取り上げ意識向上に努めている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を消防署の協力を得て行っている。日頃より職員全員で利用者の安全確保について話し合い、防災意識を持つよう努めている。運営推進会議を活用して、地域住民と一緒に避難訓練が行えるよう検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声の掛け方など、配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 利用者の誇りやプライバシーを大切に考え、トイレ誘導時や入浴時においても配慮した声かけや対応に努めている。申し送りや勉強会を通じて職員の意識づけをするなど、全職員で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 1人1人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場所を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、1人1人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) これまでの行きつけの美容院に行かれてる方もおられる。日常衣は自分で選んでもらい、個性を尊重した身だしなみが出来るようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の能力に応じた調理の下ごしらえや片付けを無理強いすることなく職員と共に行っている。施設の畑で収穫した野菜を使用し、利用者のリクエストにも応じている。	
			(外部評価) 職員や家族が持ち込んだ野菜が食卓を飾ることも多い。利用者の状態に合わせて、調理方法の形態を変えている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気づくりをしている。テーブルを拭いたり、食材を切るなど利用者ができることは職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。個々の状態に合わせて、トロミ剤使用、ミキサー食、キザミ食にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、能力に応じて職員が行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握して一人ひとりに合った声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。利用者の状況に合わせて紙パンツやパッド類で対応している。トイレには転倒防止や立ち上がり動作がしやすいように手すりを取り付けられ安全面にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動を働きかけたり、食材を工夫したり水分を多く飲用してもらうようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間、曜日の変更など希望を受け入れた対応をしている。コミュニケーションを図りながらゆったりと楽しい入浴ができるよに心掛けている。	
			(外部評価) 利用者が楽しんで入浴できるよう菖蒲湯、ゆず湯など季節感を味わえる工夫をしている。入浴が苦手な利用者には気持ちよく入浴できるよう、声かけや対応をしている。全介助が必要になった利用者には、併設のデイサービスセンターの機械浴で対応できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して休めるように、話を聞いたり、体調に合わせて横になって休息できるように努めている。室温にも気を付けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人1人の使用している薬の内容が分かるようしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の出来ること、楽しみなど、能力を発揮できるような場面づくりや何か役割のある生活が送れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。手作り弁当やおやつを持って外出したり外食する機会もある。家族にも協力を得て、家で過ごす時間を作っている。	
			(外部評価) 事業所の周りは自然が豊かで、季節の移り変わりを肌で感じながら散歩できる。月1回は道の駅にでかけるなど外に出やすい環境作りに配慮している。帰宅希望のある利用者は、家族の協力を得て自宅で過ごすことも可能で、一人ひとりの希望に添った外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。買い物の際は本人にお金を持たせ支払いをしてもらう。本人、家族の希望があればホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、手紙のやり取りや電話が出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、花を飾ったり壁面を工夫し、生活感、季節感のある物を上手く活用している。	
			(外部評価) 共用空間は大きな窓から自然の光が差し込み、季節の花が飾られて、壁にはイベント時の写真があり心地よく過ごすことができる。リビングは利用者がゆっくりと座って食事ができるテーブルと椅子やソファ、畳スペースなどがあり、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子や畳のスペースもあり、利用者同士がくつろげるような居場所や環境作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。	
			(外部評価) 居室にはベッドやエアコンが備品として用意されており、利用者の状況に合わせて一般ベッドと介護用ベッドが使い分けられている。利用者の使い慣れた好みのものが持ち込まれ、個性が感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1人1人の能力を見極め、状態に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871400200
法人名	医療法人 竹林院
事業所名	グループホーム かぐや姫
所在地	西予市野村町野村11-95-1
自己評価作成日	平成24年 8月 10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成24 年 9 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・併設のデイサービスの利用が自由に出来る。・併設に病院があり、希望に応じた受診、物療、リハビリの対応が早い。・栄養士が献立を立てており、栄養のバランスがとれている。・月1回、ボランティアによる音楽療法を実施。・月2回、同じ法人のGHとの交流会を実施。・院長自ら、週1回程度訪問し、入居者との面談を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は医療法人が母体で、同敷地内にデイサービスや訪問看護の事業所が併設されており、連携しながらケアの質の向上に努めている。田園が広がる地域に立地し、季節の移り変わりを感じながら過ごすことができる。管理者をはじめ職員全員が笑顔を大切に優しい声かけをするよう努めており、利用者一人ひとりが穏やかでその人らしい暮らしができています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目
(評価項目の構成)

Ⅰ.理念に基づく運営

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム かぐや姫

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)

氏 名 小玉弘美

評価完了日 平成24年 8月 10日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域との連携を密にしたかぐや姫独自の理念もあり、又、各階の理念もあるので勉強会や毎日の申し送りなどで理念に触れ、意見の統一を図りながら実践につなげている。 (外部評価) 開設当初に作成した理念に基づき、利用者一人ひとりの個性を大切にしたい支援のあり方をわかりやすい言葉にした介護目標や行動指針を作成している。管理者と職員は、事業所内に提示するなど日々確認しあって、ケアの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 近隣の幼、小、中学校との交流の機会がある。又、地域の奉仕活動に参加している。納涼祭には地域の人に声をかけ参加してもらっている。 (外部評価) 幼稚園や学校から年間行事の情報をもらい運動会に参加し、中学生の体験学習を受け入れている。近所の方から季節の野菜をいただくなどしているが、さらに地域との日常的な交流を拡げていきたいと考えている。	事業所が開催するイベントを、運営推進会議を活用して広く地域の方に参加を呼びかけるなど、地域との交流を進める取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方から認知症の相談を受けている。人材育成のために、実習生やボランティアの受け入れを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 小学校、消防署、職員など新たに構成メンバーを増や し、ホームの取り組み内容や具体的な課題を話し、多 くの意見を取り入れながら、今後の取り組みに反映し ている。	
			(外部評価) 運営推進会議は併設する事業所と合同で定期的に関 催し、事業所の活動報告や行事のお知らせ等をしてい る。意見交換が活発にされ、記録もしっかりとってい るので次回の会議にも活かされている。	地域との関わりを活発にするため、参加メンバーに地 域住民を入れる取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 地域包括支援センター、市役所の保健福祉課との情報 交換を行っている。今後とも共同関係ができるよう に、担当者と会う機会を増やしている。	
			(外部評価) 市の担当者に運営推進会議へ出席してもらい、利用者 の暮らしぶりや運営について理解してもらい、気軽に 相談できる良好な関係を築いている。市の介護相談員 が来訪し利用者の相談に応じてもらい、事業所と連携 してサービスの向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 毎日の申し送りや勉強会において身体拘束に関する理 解と意識を図っている。身体拘束は行っていない。	
			(外部評価) 職員は研修を通して、身体拘束の弊害など正しく認識 し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。 日々の業務の中で言葉で拘束することがないよう配慮 している。玄関の鍵は夜間以外は施錠しておらず、利 用者は自由な暮らしができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員が進んで、研修会に参加し勉強している。日々の利用者の声、表情、身体状態などに注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し勉強している。現在は制度を必要とする人はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解、納得の上、入居されている。契約内容はわかりやすい表現に心掛けている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 何でも言ってもらえるような雰囲気作りを心掛けている。出された意見はすぐに話し合いを持ち反映させている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で、利用者の個々の意見や要望を聞くよう努めている。家族の面会時には話し合える環境を作っている。遠方の家族には、機会あるごとに電話で利用者の状況を伝えて、意向を確認している。出された意見等について、職員で話し合い運営に反映するよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) コミュニケーションを図れるように努め、要望や意見を聞くように心掛けている。必ず年1回の代表者との個別面談を実施している。又、月2回のリーダー会もあり必要時は職員の意見を聞く場を設けている。 (外部評価) 管理者は職員の意見を大切に聞き取るよう努めている。管理者の姿勢が職員に伝わり、良好な関係が築かれている。年に1回、法人代表者と職員の面接もあり意見を述べる機会が設けられている。エコに関する意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 資格給をつける。精勤手当、昇給とあり、就業環境を考えてもらっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 月1回、施設内の研修を実施している。施設外研修は希望を聞き、年間の研修に全職員が最低でも2～3回は受講出来るようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 県、南予地区、市GHに連絡会があり、情報交換をしながら質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の生活のリズム、生活習慣をよく把握し、何を必要としているかを知ろうとしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等 が困っていること、不安なこと、要望等に 耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面接時に状況を把握し、家族が何を望んでいるか、家 族の気持ちになって受け止めようと努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と 家族等が「その時」まず必要としている支 援を見極め、他のサービス利用も含めた対 応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族の思い、状況を把握し、改善に向 けて本人や家族が納得し、満足できる支援に努めてい る。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場にお かず、暮らしを共にする者同士の関係を築 いている	(自己評価) 利用者に教えてもらう場面を多く持ち、声掛けに配慮 している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場にお かず、本人と家族の絆を大切にしながら、 共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時、生活の様子を話し合う機会を持ち、一緒にな って利用者を支えていく為に、同じ思いで支援して いることを伝えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人 や場所との関係が途切れないよう、支援に 努めている	(自己評価) スーパー、美容室、友人宅、お墓参りに行ったり、地 域の行事などに参加し、継続した支援を行っている。 (外部評価) 利用者一人ひとりのこれまでの馴染みの関係を把握 し、行きつけの美容室や墓参りに出かけるなど関係が 途切れないよう支援している。併設のデイサービスセ ンターは地元の利用者が多く、顔なじみの知人に声か けができよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が間に入りながら、上手く関係が築けるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了しても病院や施設に様子伺いをしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や要望を受け入れた対応をしているが、困難な場合は家族にも協力をお願いしている。	
			(外部評価) 日々の生活の中で利用者への声かけに努め、思いや意向を把握している。一対一で話すことで本音が聞けることもある。意思表示の困難な利用者については、表情や態度から思いを汲み取るように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前の面接時、家族本人から聞き把握している。又、面会時の話や日常会話の中で、これまでの暮らしを知ることが出来る。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人の性格、習慣を把握し、できること、分かる力を生活の中で見つけていくことに努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアマネ、担当者、各階のリーダーが主になって、本人、家族の思いや意見を聞いて反映させるようにしている。	
			(外部評価) 本人や家族の希望を聞いて、職員全員で話し合っ、担当者と管理者が介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い見直しをしている。利用者の状態に合わせて、家族に確認しながら介護計画がよりよいものになるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別に記録している。利用者の生活の様子が分かるように記録されている。記録を基に介護計画の見直しに生かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 併設デイサービスの利用、併設病院への受診、物療、リハビリなど、その時の要望に応じて対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 月1回、音楽療法のボランティアに来てもらっている。年に数回、幼、小、中学校との交流会がある。消防署の協力を得て、防火訓練を行っている。地域の老人会活動に参加する機会もある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人、家族の思いや意見を聞いて受診支援を行っている。必要時には訪問診察に来てもらっている。併せて職員も積極的に医療に関する研修に参加している。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。受診には職員が同行している。専門医の受診については、家族が同行している。一週間に1回、法人の代表者である医師が往診し、利用者の健康管理に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護職がいない為、併設病院の看護師との連携がとれる体勢が確保されている。又、併設に訪問看護、デイの看護スタッフがいるため、相談、助言をしてもらえる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には毎日様子伺いに行き、病院側と情報交換をしながら退院支援に結びつけている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 病院との連携を図り、指導を受けながら重度者のケアにあたっている。順次、職員は医学的知識が身につくように研修に参加している。 (外部評価) 終末期の方針を利用者や家族に説明し、希望に沿えるように、法人の代表者である医師の指導のもと職員全員で支援している。同敷地内に訪問看護事業所が併設され協力体制がとられている。急変時の対応マニュアルを作るなど職員の意識づけがされている。	「できる限り事業所で安心して過ごしたい」という利用者や家族の希望に対応できるよう、重度化や終末期の勉強会を重ねて、支援体制を整備していく取り組みに期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に消防署による人命救急の研修を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力を得て、年2回の避難訓練を行っている。運営推進会議のメンバー、ご近所の方にも協力をお願いはしている。又、運営推進会議で議題に取り上げ意識向上に努めている。 (外部評価) 年2回の避難訓練を消防署の協力を得て行っている。日頃より職員全員で利用者の安全確保について話し合い、防災意識を持つよう努めている。運営推進会議を活用して、地域住民と一緒に避難訓練が行えるよう検討している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 勉強会や申し送り時に、利用者への関わり方、声の掛け方など、配慮した対応が出来るようにしている。 (外部評価) 利用者の誇りやプライバシーを大切に考え、トイレ誘導時や入浴時においても配慮した声かけや対応に努めている。申し送りや勉強会を通じて職員の意識づけをするなど、全職員で取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 1人1人にあった声掛けをし、利用者が自分で決める場所を作っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物、散歩、趣味の時間など、1人1人の思いに配慮しながら柔軟な対応をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) これまでの行きつけの美容院に行かれてる方もおられる。日常衣は自分で選んでもらい、個性を尊重した身だしなみが出来るようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の能力に応じた調理の下ごしらえや片付けを無理強いすることなく職員と共に行っている。施設の畑で収穫した野菜を使用し、利用者のリクエストにも応じている。 (外部評価) 職員や家族が持ち込んだ野菜が食卓を飾ることも多い。利用者の状態に合わせて、調理方法の形態を変えている。利用者と職員が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができる雰囲気づくりをしている。テーブルを拭いたり、食材を切るなど利用者ができることは職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士に献立を作成してもらっている。食事摂取量は記録している。個々の状態に合わせて、トロミ剤使用、ミキサー食、キザミ食にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後声掛け対応を行い、能力に応じて職員が行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録表をつけ、個々の状態を把握し、トイレ誘導を行っている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握して一人ひとりに合った声かけや誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。利用者の状況に合わせて紙パンツやパッド類で対応している。トイレには転倒防止や立ち上がり動作がしやすいように手すりを取り付けられ安全面にも配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動を働きかけたり、食材を工夫したり水分を多く飲用してもらうようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間、曜日の変更など希望を受け入れた対応をしている。コミュニケーションを図りながらゆったりと楽しい入浴ができるよに心掛けている。	
			(外部評価) 利用者が楽しんで入浴できるよう菖蒲湯、ゆず湯など季節感を味わえる工夫をしている。入浴が苦手な利用者には気持ちよく入浴できるよう、声かけや対応をしている。全介助が必要になった利用者には、併設のデイサービスセンターの機械浴で対応できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安心して休めるように、話を聞いたり、体調に合わせて横になって休息できるように努めている。室温にも気を付けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人1人の使用している薬の内容が分かるようしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個人の出来ること、楽しみなど、能力を発揮できるような場面づくりや何か役割のある生活が送れるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 勤務状態や内容により、希望にそえない事もあるが、出来るだけ希望に応じた対応をしている。手作り弁当やおやつを持って外出したり外食する機会もある。家族にも協力を得て、家で過ごす時間を作っている。	
			(外部評価) 事業所の周りは自然が豊かで、季節の移り変わりを肌で感じながら散歩できる。月1回は道の駅にでかけるなど外に出やすい環境作りに配慮している。帰宅希望のある利用者は、家族の協力を得て自宅で過ごすことも可能で、一人ひとりの希望に添った外出支援が行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 能力に応じて管理してもらっている。買い物の際は本人にお金を持たせ支払いをしてもらう。本人、家族の希望があればホームで預かっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じて、手紙のやり取りや電話が出来るようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使いやすい配置にしたり、花を飾ったり壁面を工夫し、生活感、季節感のある物を上手く活用している。	
			(外部評価) 共用空間は大きな窓から自然の光が差し込み、季節の花が飾られて、壁にはイベント時の写真があり心地よく過ごすことができる。リビングは利用者がゆっくりと座って食事ができるテーブルと椅子やソファ、畳スペースなどがあり、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールにはテーブルや椅子や畳のスペースもあり、利用者同士がくつろげるような居場所や環境作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の馴染みの物や好みの物を生活の中に持ち込まれている。	
			(外部評価) 居室にはベッドやエアコンが備品として用意されており、利用者の状況に合わせて一般ベッドと介護用ベッドが使い分けられている。利用者の使い慣れた好みのものが持ち込まれ、個性が感じられる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 1人1人の能力を見極め、状態に合わせて手すりをつけたり、福祉用具を利用して少しでも自立した生活が送れるように支援している。	